

# 高木健次 健政だより

## 謹賀新年



昨年10月に誕生した岸田総理は「分配と成長の好循環」を掲げて大規模な経済政策を打ち出し、年末には過去最大の35兆円規模の補正予算を成立させ、引き続き対策を講じる

に大きな影響が出ました。県としても先手先手であらゆる対策を講じてきた結果、第5波を乗り越え、感染状況は落ち着きつつありますが、一方で新たなオミクロン株が確認され、引き続き対策を講じる

明けましておめでとうございます。皆様にはお健やかに新年をお迎えのこと、心よりお慶び申し上げます。昨年は、新型コロナウイルス感染症の第3波に始まり、7月に到来した第5波では、感染力の強いデルタ株による感染が急速に拡大し、県民生活や経済活動

必要があります。

そのような中でも、スポーツの分野では明るいニュースが多くありました。東京オリンピック・パラリンピックが開催され、県関係選手の素晴らしい活躍があり、プロ野球やフットサル、ロードの村上宗隆選手(九州学院卒)は本塁打王・MVPを獲得するなどし、県民に元氣と感動をもたらしました。

また、世界最大手の半導体企業であるTSMCの工場が熊本に、日本初進出すると発表しました。「半導体産業集積により、日本の経済安全保障の一翼を担っていく」という蒲島知事の想いを後押しするものであり、本県にとって大きなチャンスであると考えております。

県では、半導体関連の技術者の育成、中九州横断道路など周辺道路の整備をスピード感を持って進め、国家プロジェクトでもある工場進出の効果を県内はもとより九州、そして全国へと波及させて参ります。

第55号(冬季号)

発行者  
熊本県議会議員  
高木健次

電話(096)215-5877  
FAX(096)215-5878

政治とは住民の暮らしである

### 熊本県議会11月定例議会

令和3年11月30日~12月21日(22日間)

せました。その効果を県内にも波及させ、新型コロナウイルスの克服と県内経済の再生を実現するとともに、県並びに合志市の発展のため、蒲島知事、荒木市長としっかりと連携し、職責を果たして参りますので、尚一層のご支援とご指導を賜りますようお願いいたします。結びに、皆様にとりまして本年が素晴らしい年になりますよう心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

11月定例県議会は21日、新型コロナウイルス感染症対策を進める2021年度一般会計補正予算など57議案を可決・認定・承認して閉会しました。補正予算は90億5700万円を追加し一般会計の総額は9960億5100万円となりました。新型コロナウイルス対策はワクチン接種の専用相談窓口を継続し、県有施設の感染防止対策としてデジタル整備を進めます。世界最大手の半導体メーカーTSMCの県内進出に伴い、熊

本空港とJR豊肥線を結ぶアクセス鉄道ルート案を再検討する調査費も確保しました。現在の法体系では巨大地震や感染症など重大な緊急事態に対応できない恐れがあるとして、自民党県議団と公明党県議団の代表2人により関連法の見直しと国民的な議論の喚起を国に求める意見書が可決されました。

#### 教育警察常任委員会

**高木委員** 県警公用車事故防止対策について聞きたい。路面電車と衝突し多額の損害賠償を支払うなどの他、県警側の過失による事故が散発している。幸い怪我人はいないと聞いているが、普段からの意識が緩慢になっているのではないか。今後、警察本部として車両運転者はもとより職員も含めた対策をどのように行うのか。

**主席監察官** 熊本県警察としても、職員の交通事故の多発状況を大変重く受け止めている。これまで事故当事者や所属の幹部を本部へ招致指導、全職員に対する事故原因に基づく具体的な指導教養、各所属における運転訓練の実施等に取組んでいたが、更に踏み込んだ指導が必要と考えている。最近の公用車交通事故では、運転技能の未熟、自己の運転技能の過信による事故も多く発生しており、運転技能向上や安全意识向上に向けた踏み込んだ対策が必要であると考えている。

最近、高齢者をはじめとする交通安全教育に、運転技能自動評価システム通称「オプジエ」を導入した。これは運転手個々の特性を可視化するシステムであり、運転中の安全確認の度合いや、アクセル・ブレーキの使い方などを数値化し、運転技量を自動で評価できる。これを職員の交通安全教育にも活用しようと、本日報告した路面電車と衝突した職員にも、既にこのシステムを導入した安全教育を受けさせた。今後様々な対策を検討しながら、公用車交通事故の防止に万全を努めてまいりたいと考えている。

交通安全教育に、運転技能自動評価システム通称「オプジエ」を導入した。これは運転手個々の特性を可視化するシステムであり、運転中の安全確認の度合いや、アクセル・ブレーキの使い方などを数値化し、運転技量を自動で評価できる。これを職員の交通安全教育にも活用しようと、本日報告した路面電車と衝突した職員にも、既にこのシステムを導入した安全教育を受けさせた。今後様々な対策を検討しながら、公用車交通事故の防止に万全を努めてまいりたいと考えている。

**高木委員** 「オプジエ」という自動システムを取り入れて対策を講じているということだが、県警公用車は緊急を要する運転の場合、当然危険度も増す。これからも乗務員の教育徹底、交通安全の指導にしっかりと取り組んでもらいたい。

#### 地域対策特別委員会

**委員** 「新たな地方創生への取組に関する件」について、DX人材の確保育成に関する考えはどうか。

**情報政策課長** 人材確保については情報政策課の拡充を行う局への再編、民間人材の幹部登用を検討中である。人材育成については、まだまだ足りておらず、中間管理職の意識改革が重要であると考えている。  
**委員** DX人材の幹部登用はどのような人材か。  
**執行部** 新しい局を設けるので、局長を補佐する人材。

**委員** 総務省の手順書では、技術的見地からの補佐は出身企業と兼務可能となっている。公務員の服務規程の適用はあるのか。  
**執行部** 任用形態を含めて検討中である。

**委員** 情報通信インフラの整備状況はどうか。都会は整備が進むが、田舎では整備が進まない。阿蘇地域には携帯電話の不感地域がある。  
**執行部** 携帯電話会社によると本県の人口カバー率は、99.9%。県内の不感地域世帯は90世帯しかない。

**委員** 不感地域の判定が、家屋内での携帯電話使用も考慮されているか疑問である。

**委員** 2023年ほどのような状況になっているか。  
**執行部** オフィスへの出勤が減り、出勤するのは議論が必要な場合などとなり、都市部に住み続けなくても地方で仕事を続けられるようになる。医療もオンライン化する。そんな2023年に向けて取り組んで行く。





# 11月定例県議会一般質問 高木けんじ 質問要旨



一般質問する高木県議

## TSMCの熊本進出への 対応について

①知事の所感と県の取組み  
**【高木県議質問】** 去る11月9日、TSMCとソニーが半導体製造受託サービスを提供する新会社を設立し、菊陽町への工場建設を発表した。熊本の新工場は2022年に建設開始、2024年末までの生産開始を目指し、約8,000億円の設備投資と、1,500人以上の雇用創出が見込まれるとのこと。今回の投資規模はこれまでの熊本県の企業誘致の中でも最大級とのこと。本県経済の浮揚と更なる発展に繋がるものだと大いに期待している。

また知事は「熊本県における半導体関連企業の集積を活かし、熊本の地から国の安全保障の一翼を担いたい」と話されている。今回のTSMCの誘致については、半導体の安定調達を「国家戦略」と位置付ける経済産業省が主導したと報じられており、その実現にあたって

は、半導体企業の集積を進めてきた熊本県のこれまでの取り組みが

大きく貢献したと考える。ただTSMCの工場建設については、人材確保以外にも様々な課題が発生すると考えられる。「国家プロジェクト」でもある今回のTSMCの進出について、今後、県としてどのような考えをもつて対応されるのか、知事のお考えを尋ねる。

**【知事答弁】** TSMCによる日本での初めての工場進出は、本県の強みである半導体関連産業の集積を更に加速させるものである。県経済の活性化はもとより、半導体の安定供給等を通じ、日本の様々な産業分野の発展に貢献するとともに、世界に向けて「熊本」をアピールするビッグチャンスと認識している。国家プロジェクトである今回の新工場建設を全力で支援し、その波及効果を最大限に高めていくため、3つの視点に立ち取り組みを進める。

1つ目はTSMCとの信頼関係の構築。2つ目は新工場の円滑な稼働に向けた課題への迅速な対応。3つ目は今回の進出を契機とした「地方創生の推進」。これまでの企業誘致という枠を超えて、様々な分野で熊本の可能性を最大限に高めて行く。また世界的企業であるTSMCの進出を機に、これまで県外に流出していた人材を含め、国内外を問わず優秀な人材が熊本に集まる知の集積に向けた取り組みを積極的に進める。

②周辺道路の整備  
**【高木県議質問】** セミコンテックパーク周辺では、既に朝夕

の通勤時間帯を中心に交通渋滞が常態化しており、TSMCの工場が稼働することにより渋滞が深刻化するのではと考える。そこで、TSMCが進出するセミコンテックパーク周辺道路の整備について、県はどのように考えているのか、土木部長に尋ねる。

**【土木部長答弁】** この地域では多くの企業が立地し、朝夕の通勤時間帯を中心に交通渋滞が発生しており、大きな課題である。これまでの調査により、朝の通勤時間帯には東西方向の道路より国道57号から北へ向かう道路に渋滞が集中していることが分かった。

また本年7月には、県・合志市・大津町及び菊陽町が連携し「菊池南部総合交通研究会」を設置した。この研究会では交通渋滞の現状を把握し、その対策として公共交通の活用策や道路ネットワークの整備及びボトルネック対策等の検討を始めている。

**【高木県議】** セミコンテックパーク北側に計画されている中九州横断道路(熊本大津道路)合志大津間の早期事業化、セミコンテックパーク南側を東西に走る県道30号大津植木線及び県道341号大津西合志線の四車線化、渋滞対策についても引き続き検討をお願いする。

③空港アクセス鉄道  
**【高木県議質問】** TSMCの進出に伴う渋滞対策として更なる道路整備が重要であることは間違いなく、現在、空港周辺地域における新たな公共交通機関として検討が進む空港アクセス鉄道について、知事より「TSMCの立地決定を踏まえ、県内全域の交通ネットワークの利便性向上に繋がるよう、

現在の三里木ルート案のみならずより効率的で効果の高いルートについてスピード感を持って検討していく」との発言があった。私も空港アクセス鉄道は、空港アクセスの改善としての役割だけでなく、セミコンテックパークを含む空港周辺地域全体の交通便利性の向上に繋げることが重要であると考える。TSMCの進出により更なる渋滞の悪化などの懸念はあるものの、国内外との人流・物流の増加に大きな期待を抱いているが、知事は今回のTSMCの進出を受け、空港アクセスと鉄道について今後どのように検討を進めていくのか。

**【知事答弁】** 空港アクセス鉄道の整備は、JR豊肥本線とともに空港周辺地域における公共交通の基盤となるものであり、道路整備と合わせて渋滞対策としても重要な取り組み。これまで空港利用者の定時性・速達性・大量輸送性を確保するとともに、県民総合運動公園へのアクセスの改善が可能な三里木駅からの分岐ルートを軸に検討を進めてきた。しかし空港周辺地域はTSMCの進出により、本県における半導体産業の集積拠点としてのみならず国の経済安全保障に

とつても重要な地域となる。空港アクセス鉄道の検討を開始した平成30年頃と比べ、取り巻く環境が大きく変化した。議員ご指摘のとおり、TSMCの進出や今後想定される関連企業の更なる集積により、空港を含め、人や物の流れが大きく変化する。これらを踏まえ、空港周辺地域の可能性を最大化するため、ハード・ソフトその両面から対策を講じていく必要がある。具体的には三里木ルートに加え、セミコンテックパークに最も近い原水駅で分岐する「原水ルート」や、豊肥本線の電化区間の終点である肥後大津駅から分岐する「肥後大津ルート」についても調査を実施する。検討の状況や結果については県議会や空港アクセス検討委員会において丁寧な説明を行い、県民の皆様のご理解をいただきながら進める。

**【高木県議】** どのルートにしてもしっかりと調査をしてもらいたい。またTSMCの操業開始や空港新ターミナルビルの開業を考えると時間的な猶予はない。空港アクセス鉄道の整備の遅れが足枷とならないよう、知事には来年中には事業化を判断されることを期待する。

球磨川流域における新たな流水型ダムについて  
**【高木県議質問】** 知事は昨年の本議会で現行の貯留型「川辺川ダム計画」の完全な廃止と、命と環境の両方を守る新たな流水型ダムの整備を国に求めることを表明された。ダム問題に長年翻弄され続けてきた五木村の振興や生活再建については県議会としても最

重要課題。新たな流水型ダムを前提として、村民の方々から後も末永く住み続けられるよう最大限の支援を行うことが喫緊の課題である。

そこで知事に、まず国から示された新たな流水型ダムについてどのように受け止めておられるのか。また整備の長期化が懸念される中で今後の整備の見通しとダムが完成するまでの間、流域住民の安全・安心をどのように確保していくのか。更に五木村やダム建設地となる相良村の振興に取り組み決意についてお尋ねする。

**【知事答弁】** 球磨川流域において「緑の流域治水」の一つとして、住民の命を守り地域の宝である清流を守る新たな流水型ダムを国に求めることを表明し、国土交通大臣に直接要請して「最新の技術を極限まで取り入れながら安全と環境の両立をできる限り追求する」との強い発言をいただいた。今後、球磨川流域に極限まで配慮し、取り組みを着実に進めて行く。

新たな流水型ダムの今後の整備の見通しとダムが完成するまでの間の安全・安心の確保については、概ね5年間の第一段階で調査・検討の進捗を図り、令和11年度までの第二段階で整備の進捗、完成を図る。今後新たな流水型ダムを含む緑の流域治水について国と連携し、五木村相良村の皆様にご理解・ご協力をいただけるよう、丁寧な説明を尽くす。その上で、両村の皆様の意見をしっかりと伺いしながら、国・県が一体となってこれまで以上の責任と覚悟を持って両村の振興に全力で取り組んでいく。

答弁する浦島知事

新たな流水型ダムについて  
**【高木県議質問】** 知事は昨年の本議会で現行の貯留型「川辺川ダム計画」の完全な廃止と、命と環境の両方を守る新たな流水型ダムの整備を国に求めることを表明された。ダム問題に長年翻弄され続けてきた五木村の振興や生活再建については県議会としても最



### DXの取り組みについて

#### 【高木県議質問】

社会経済環境が大きく変化する中、デジタル技術は急速に進展しており、その技術を活用し様々な社会課題の解決や経済の発展に向けた取り組みが求められている。福祉や災害対応など、県民に安心感を与えより良い県民生活を実現する上でも大変重要なもの。県には本県全体のDXをリードしていく役割が期待され、そのエンジン役となる県の所管部署もしっかりとした体制を整えることが重要と考える。本県におけるDXの取り組みをどのように進めていくのか、またDX推進に向けた今後の県の組織体制の強化についてどのようにお考えか蒲島知事に尋ねる。

#### 【知事答弁】

デジタル技術による社会経済活動の変革を目指す「デジタルトランスフォーメーション」の推進は、本県においても将来の発展に繋がれるもの。県では昨年「DXくまもと創生会議」を設立し、産学の中心的メンバーとDX推進による熊本の可能性等について議論を重ね、県民総幸福量の最大化に向けた2つのビジョンと7つの方向性、その実現手段を示し、産学官共通の羅針盤となるブランドデザインの原案について議論した。県の組織体制の強化についてはDXに関する全庁的な取り組みを統括し、産学官のDXの推進、市町村におけるDXの支援、庁内のシステム改革などの組織体制の更なる強化を進める。

#### 【高木県議】

DXとは何か、

県民にはどのようなことが求められ、どのような恩恵があるのか、抽象的で解りにくい。できる限り具体的に説明し、県民の理解を得ながら取り組みを進めてほしい。小規模な自治体は人的・財政的にも対応が難しいところもあり、県としてしっかりと支援するようお願いする。

### スポーツを活用した地域活性化について

#### 【高木県議質問】

今年のスポーツを振り返ると「東京2020オリンピック・パラリンピック」が最も大きな話題だった。コロナ禍で1年の延期を余儀なくされ、日常の練習も制限されるなどの大きな逆境を乗り越え全身全霊でプレーするアスリートの姿は世界中の人々に感動を与えた。熊本県ゆかりの選手の活躍も素晴らしいものがあり、多くの県民が勇気づけられた。

また熊本では3つのプロスポーツが盛り上がりを見せている。サッカーのロアッソ熊本は、先週の日曜日の最終戦で4期ぶりとなる悲願のJ2復帰を果たした。バスケットボールでも熊本ヴォルターズが上位をキープしている。野球の火の国サラムンダーズは9月に九州アジアリーグの初代王者となるなど、県民のスポーツ熱の高まりに繋がっている。このように、県内のスポーツ界には非常にいい流れができていると感じている。スポーツは県民や地域を元気にするとともに大変大きな経済効果をもたらす。女子ハンドボール世界選手権は98億円、ラグビーワールドカップ

2試合で106億円の経済効果を生み出した。このように、大きな可能性を持つスポーツの力をどのように活かし、どのような取り組みを行っていくのか、観光戦略部長に聞きたい。

#### 【観光戦略部長】

スポーツは「見る」「支える」という点で、幅広い世代、多様な方々が参画し親しめるものであり、人や地域を元気づけ、更に輝かせる大きな力を持っている。国内の関連産業の消費額は、2019年には6600億円となっており、新型コロナによる影響は受けたものの、今後拡大が期待される。

#### 【高木県議】

県ではスポーツが持つ多様な力を県の活力に繋げるべく、「熊本県スポーツツーリズム推進戦略」を今般策定し、国際大会の開催等による従来型の誘客に加え、コロナ禍で生まれた新しい生活スタイルに対応した「スポーツツーリズム」の創造を目指し、スポーツと観光を結び付けた3つの戦略を掲げている。1つ目が「スポーツと観光を組み合わせた旅行コンテンツの開発」。中でも、熊本の温泉や食を健康や美容に活用するウエルネスツーリズムを推進。2つ目が「各コンテンツのネットワーク化及びブランド化」。各地域で開発された旅行コンテンツを繋いで県内統一の「くまもと旅スポーツブランド」として打ち出し、国内外への訴求力をより高める。3つ目が「集客力のある大規模スポーツ大会の開催」。具体的には、自転車競技の国際大会となるツール・ド・九州の開催や、バドミントン国際大会等の誘致に

#### 【高木県議】

精力的に取り組む。更には、東京オリンピックで注目を浴び、今後の成長株として期待されるスケートボードなどのアーバンスポーツについても積極的な活用を検討する。

「県民の体力の維持向上や将来を担う子供たちの夢を育むもの」であり、県民幸福量の最大化につながる、極めて重要なもの。教育長からも「将来を担う子供たちの夢を育むもの」との答弁があり、その意義については十分ご認識を頂いているものと思っている。

#### 【高木県議】

「熊本県・熊本市のスポーツ施設のあり方検討会議」取り纏められた報告書では、藤崎台県営野球場や熊本武道館は適切な維持管理を行うことで今後も活用可能な施設であることが示された一方、新施設の必要性の検討も必要と整理されている。

#### 【高木県議】

また、県の「第2期熊本県まち心とこと創生総合戦略」には、スポーツ施設の整備の在り方について、「県民的議論を深め、方向性を取りまとめ」と掲げられている。

#### 【高木県議】

私は、スポーツ施設は、スポーツをするためだけの施設だけではなく、観て楽しむことでもできる施設であると考えている。しかし、本県のスポーツ施設に関して言うと、建設から数十年経過し、スポーツイベント等の興業の誘致には適さない状況である。

#### 【高木県議】

また、藤崎台県営野球場でいえば、昨年度の収支は、収入がおよそ1,500万円に対して、支出はおよそ6,000万円と赤字の状態となっている。この状況が毎年続くのであれば、スポーツイベント等の使い勝手が良く、多くの観客を呼び込むことができる新たなスポーツ施設を建設したほうが、長い目で見れば県財政にも良いのではないかと考える。昨年、プロ野球独立リーグで火の国サラムンダーズも創設され、新た

な野球場を求める声も上がっている。また、熊本ヴォルターズではアリーナ建設の動きもあると聞いている。九州各県でも近年子供から大人まで、入っただけでワクワクするような気持ちになる素晴らしいスポーツ施設が建設されている。このままでは熊本県は、誘客の面でも他県に後れを取ることが危惧される。

#### 【高木県議】

熊本地震、令和2年7月豪雨、新型コロナウィルス感染症対策の三重苦にあえぐ県の厳しい財政事情は理解しており、今すぐに新たなスポーツ施設を建設すべきと言っているのではない。PFIなど民間資金を活用した建設手法もある。他県ではスポーツ施設の建設に当たり、**企業版ふるさと納税を活用した例もあり**、このような民間資金の活用も選択肢としながら、庁内でプロジェクトチームを設置するなど、十分な議論をした上で方向性を出していただきたい。

「県民の体力の維持向上や将来を担う子供たちの夢を育むもの」であり、県民幸福量の最大化につながる、極めて重要なもの。教育長からも「将来を担う子供たちの夢を育むもの」との答弁があり、その意義については十分ご認識を頂いているものと思っている。

#### 【高木県議】

「熊本県・熊本市のスポーツ施設のあり方検討会議」取り纏められた報告書では、藤崎台県営野球場や熊本武道館は適切な維持管理を行うことで今後も活用可能な施設であることが示された一方、新施設の必要性の検討も必要と整理されている。

#### 【高木県議】

また、県の「第2期熊本県まち心とこと創生総合戦略」には、スポーツ施設の整備の在り方について、「県民的議論を深め、方向性を取りまとめ」と掲げられている。



老朽化が進む県営藤崎台球場





カローリング大会参加の皆さん



栄コミュニティ主催のカローリング大会に参加してきました。狙いを定めて気合の一投。しかし無情にも的を逸れてコースアウト。楽しい時間ありがとていざいしました。また誘ってください。次こそは中心にナイスショット。

栄カローリング大会に参加



11月19日所属している常任委員会の管内視察で、阿蘇市の阿蘇神社を視察して来ました。拝殿は再建が完了し、翼廊との新旧のコントラストが復旧を物語っていました。拝殿は令和5年12月の完成予定ですが、是非阿蘇にお出かけいただき、阿蘇の復旧・復興を見守ってください。

教育警察常任委員会での阿蘇管内視察



市政15周年式典出席

- 9日 永江団地陳情対応
- 11月 1日 平島交差点要望対応
- 2日 市役所建設課と打ち合せ
- 4日 自民党役員会
- 20日 県北本部土木部長来所
- 22日 あさかゼミによる衆院選広報活動
- 25日 坂本選対合志市遊説
- 28日 秋の叙勲者への祝辞訪問
- 31日 衆議院選投開票



商工会地域問題懇談会

- 10月 11日 第三選挙区協議会
- 12日 日本会議講演会
- 12日 街頭演説(世安交差点)
- 13日 県労働雇用創生課来所
- 14日 西部方面副署長挨拶
- 15日 合志支部衆議院選対会議
- 19日 令和4年度予算要望聴取
- 及び衆議院選対会議
- 19日 坂本てつし氏出陣式
- 商工会地域問題懇談会

高木県議の主な動き



「藤木しんや君を励ます会」に出席

- 11日 一般質問
- 10日 参議院議員
- 9日 自民党厚生部会
- 茶業振興会議懇談会
- 一般質問
- 地域対策特別委員会
- 正副委員長事前レク



13回目の一般質問に登壇する高木県議

- 12月 2日 障害者商品 展示・商談会
- 6日 県北本部維持管理課来所
- 7日 自民党役員会
- 8日 高木県議一般質問登壇
- 30日 11月定例会開会
- 議員団総会
- 看護職との交流会

- 10日 議員団総会
- 14日 栄コミュニティ主催カローリング大会出席
- 17日 地域問題懇談会(商工会)
- 18日 ゼロカーボン社会推進特別委員会
- 19日 教育警察委員会管内視察
- 22日 緊急議員団総会
- 22日 自民党政審会
- 26日 地域対策特別委員会
- 30日 市長訪問、議会傍聴



陸上自衛隊第八師団の小林師団長と若松副師団長着任挨拶のため県議会を訪問

- 27日 西部方面副署長離任挨拶
- 22日 第八師団師団長離任挨拶
- 21日 11月定例会議閉会
- 17日 議員団総会・政審会
- 故・山本秀久氏を偲ぶ会
- 県果実連との情報交換会
- 合志北警察署警備課来所
- 第八師団師団長着任挨拶



教育警察常任委員会にて質問する高木委員



地域対策特別委員会にて報告を受ける高木委員長

- 13日 北朝鮮拉致問題解決講演会
- 14日 議員団総会・政審会
- 14日 地域対策特別委員会



傍聴終了後、議会棟前での記念撮影

編集後記  
今回初めて定例議会上で熱弁を振るう高木県議を見ました。うったはれして、むしろ良かつたです。高木県議の後に皆さんがいるような印象さえ感じる程でした。新型コロナウイルス感染症が一日も早く落ち着き平穏な年となりますように。今年もよろしくお願ひ致します。  
宮崎正昭

県議会議員高木健次事務所

所在地 熊本県合志市栄3240-1

電話 096-215-5877

FAX 096-215-5878

メール takaki@kvd.biglobe.ne.jp

URL http://www5b.biglobe.ne.jp/~takaki-k/

一般質問の動画は熊本県議会のホームページから視聴できます。PCや携帯で、熊本県議会インターネット中継を検索、議員名から選ぶ↓高木健次でご覧ください。